

## こうありたい英語教育

私は、概ね1～2ヶ月に1回東京へ行きます。

よくあるパターンは、金曜夜に高速バスに乗り、次の日の早朝に東京へ着きます。

そしてこの朝、英語に浸ります。

関越道が関東平野に出た頃から、AFN (American Forces Network かつてのFEN) を聞こえはじめます。

音楽が多いが、定時にはABCニュース、在日米軍兵士へ向けた情報、東京の観光案内、防災・安全情報など、さまざまな内容を聞くことができる。ABCニュースは(超)ハイスピード、兵士の子供や家族向けの情報及び防災情報などはゆっくり伝えている。

都内を移動するときは、イヤホン使ってAFNラジオを聞いています。

朝食は、決まった喫茶店でとりますが、金曜日家に届く英語ウィークリーを一気に読みます。

また、都内には外国人が多いので、どんなことを喋っているか聞き耳を立てます。

ニュースや日常会話はいつまで経ってもお手上げ状態です。できるだけ速くキーとなる単語を聞き出し、何について話しているか予想を立てるように努力をしています。日本語と同じように何の話かがわかればヒトの頭脳は予想に基づき理解が進みます。

さて、近年、英語教育の早期化が話題になっています。

これからの子供たちの英語の力はどうなるのでしょうか。楽しみである。

一部の子供は、早期プログラムで聞き分けや会話は身につくと思われま

す。しかし、多くは興味が伴わなかったり、その子供の特性により、すぐに身につかない場合があると思われま

す。(自分に当てはめればわかると思う)

今後、子供たちに対する英語教育に求めたいことは、

- ・英語に興味を持たせること
- ・学校教育の間だけでなく、社会人になっても学び続けること
- ・学校教育の英語とともに、日常の英語に触れること
- ・困っている外国の方に声をかけてあげることができる人を育成すること

である。

そして、忘れていけないことは、「読み」と「書き」である。

国際間のコミュニケーションはメールや新聞(書物)が主流である。

さっと読み大意をつかむ。辞書を使わず、さささっと簡易な英文を書く。このような能力は必要である。

だから、高校の英語が、過度なコミュニケーションに偏らず、読み書きをしっかりとっておかなくては

いけない。そうしないと、論文の読み書きができず、結局学術水準低下につながるようになっては

いけない。(大学院現職教員対象社会人入試科目に英語が無いことがおかしい！)

最後になるが、究極は、子供が小学生になった時、親が外国人と簡単な会話をして助けてあげている姿

を見せてあげられること(生きた道徳教育の見本にもなる)、小学生(子供)が学校で学んだ英語を家

で親に披露しているときに、親が子供の相手してあげることができること、である。

そして、英語教育早期化が成功するかは、小学校の先生、全指導主事、大人が英語に興味を持って学び

なすことである。今後英語を学ぶ小学生にだけ任せてはいけない。大人の問題である。